

# 循環型社会の形成に貢献する フォームドアスファルト技術「LEAB」

前田道路株式会社  
技術本部技術部

URL <http://www.maedaroad.co.jp/>

03-5487-0030

tech@maedaroad.co.jp

## 概要

我が国の道路舗装は約 50 年前の高度経済成長期の頃から現在にかけて着々と整備され、現在の舗装延長は約 100 万 km になります。1980 年頃からは舗装新設費、そして 1990 年代半ばにかけてからは舗装維持修繕費が減少に転じており、そのような中で、今後この膨大な社会資本ストックを持続安定的に維持管理していく必要があります。

舗装の維持修繕に使うアスファルト合材のリサイクル率は実に 99% 以上であり、早くから循環型社会の形成に貢献してきました。しかし、アスファルト合材はリサイクルを繰り返すことによる品質の劣化が懸念されます。その対策として、アスファルト廃材からリサイクルした再生骨材に付着した古いアスファルトの性状を回復させる添加剤、すなわち再生添加剤等を添加して品質劣化の防止に努めていますが、将来にわたって繰り返しリサイクルする上で品質確保への取り組みは必要不可欠です。

そこで、当社では将来にわたって再生アスファルト合材の品質を確保すべくフォームドアスファルト技術(当社名:「LEAB (レアブ)」)を開発・導入しました。

## 「LEAB (レアブ)」の特長

当社のフォームドアスファルト技術「LEAB」は、アスファルト合材の製造時、アスファルトに微量の水を添加し発泡させることで、従来よりも製造温度および施工温度を下げるができるものです。LEAB 技術を導入すると、アスファルト合材は微細な泡の働きによって良好な混合性および施工性を維持することができます。施工した後、泡は消えて通常の舗装と同じ性状となります。

「LEAB」は、再生アスファルト合材の製造時にアスファルトだけではなく再生添加剤も発泡させて、アスファルト合材のリサイクルを繰り返しても劣化を抑制することで品質を確保することができます。現在、全国 14 箇所の合材工場で稼働しており、今後も引き続き導入を進め、循環型社会の形成に貢献していきます。



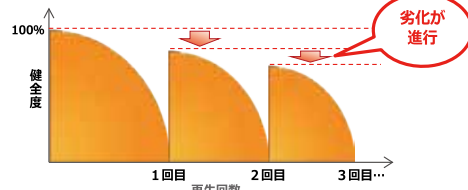
■ 発泡したアスファルト



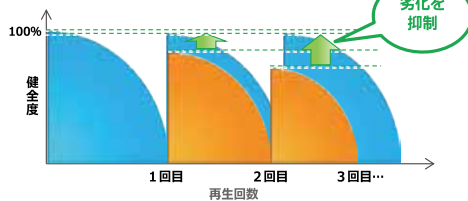
## ミキサ

■ 「LEAB」によるアスファルト合材の製造

### 従来の再生アスファルト合材



### LEAB技術を活用すると・・・



■ 繰り返し再生によるアスファルト合材の品質確保